



たてよこ書店

活動紹介資料

たてよこ書店店主 堀田滉樹

自己紹介

たてよこ書店

堀田滉樹

(ほったこうき)

2000年7月23日生まれ。新潟県上越市出身。
東京の拠点は国分寺市。

2022年12月に上越市の雁木町家を活用して「たてよこ書店」をオープン。
町家全体を活用した複合施設にするため事業展開準備中。

東京では、渋谷にあるアクセラレーションスペース「100BANCH」の運営や
国分寺市の地場産野菜「こくべじ」の流通に携わる。

現在は東京と上越の二拠点で生活をしながら
「日常生活をいかにおもしろくできるか」をテーマに活動中。

これまでの活動紹介

たてよこ書店

福島県葛尾村での地域づくりインターン

東日本大震災による原発事故で被災し、5年ほど全村避難をしていた村で
地域づくり系のインターンシップに参加。
その後、スタッフとしてプログラム運営に携わり、以下のプログラムを担当。

スマートコミュニティ構築に取り組む電力会社のプログラム
役場職員と共に行政と住民の連携強化を目指すプログラム
農作物の販売力強化を目指すプログラム



これまでの活動紹介

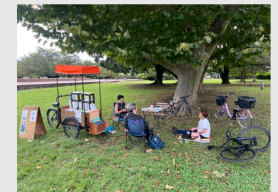
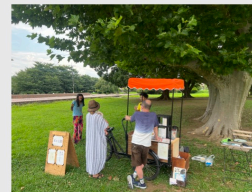
たてよこ書店

公共空間の活用促進プロジェクト「本と公園」

国分寺市の公共空間の活用促進を目指したリサーチプロジェクト

週に1回、モバイル屋台を用いて公園で本屋を開店。
1日中ただそこにいるだけ。

毎回、どんな人が来て、どんな話をしたかをnoteにアーカイブ。
ほとんどは市営の公園だったが、都立公園へのイベント出店を数回実施。



古本8割・新刊2割のまちの小さな書店 たてよこ書店

上越市東本町にある雁木町家を活用し、小さな書店を営む。
毎月上旬（1日～10日）を目安に開店中。

今後は建物全体を活用して複合施設にしていく。



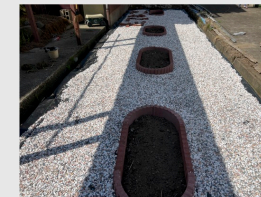
「ケ」の日をちょっと豊かにする

雁木通り・町家がもったいない
ポテンシャルを感じている

雁木通りを歩けるエリアに

複合施設化計画

後ほど詳細をご説明します



計画的偶発性理論
(Planned Happenstance Theory)

2020年10月 広島県尾道市に滞在（大学2年）

1ヶ月間滞在し、オンライン授業を受けながら空いた時間を使って、まちの人々と交流

2021年1月 ぶんじ寮入居（大学2年）

「まちの寮になる」「お金に頼るのを半分にする」「安心と冒険」というコンセプトのシェアハウスに入居し、地域通貨も取り入れながら生活。

2022年4月 大学休学（大学4年）

「自分の仕事を自分で作りたい」という思いから休学を決意。
上越市で空き家リサーチを開始。

2020年10月 広島県尾道市に滞在（大学2年）

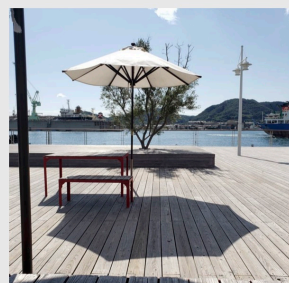
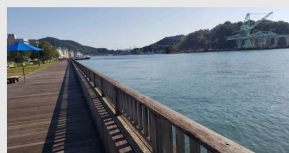
1ヶ月間滞在し、オンライン授業を受けながら空いた時間を使って、まちの人々と交流

2021年1月 ぶんじ寮入居（大学2年）

「まちの寮になる」「お金に頼るのを半分にする」「安心と冒険」というコンセプトのシェアハウスに入居し、地域通貨も取り入れながら生活。

2022年4月 大学休学（大学4年）

「自分の仕事を自分で作りたい」という思いから休学を決意。
上越市で空き家リサーチを開始。



2020年10月 広島県尾道市に滞在（大学2年）

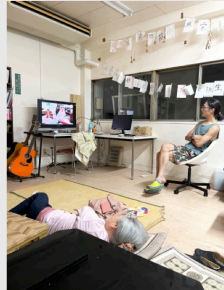
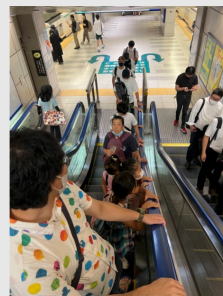
1ヶ月間滞在し、オンライン授業を受けながら空いた時間を使って、まちの人々と交流

2021年1月 ぶんじ寮入居（大学2年）

「まちの寮になる」「お金に頼るのを半分にする」「安心と冒険」というコンセプトのシェアハウスに入居し、地域通貨も取り入れながら生活。

2022年4月 大学休学（大学4年）

「自分の仕事を自分で作りたい」という思いから休学を決意。
上越市で空き家リサーチを開始。



2020年10月 広島県尾道市に滞在（大学2年）

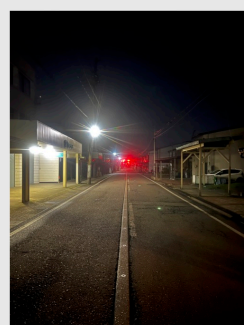
1ヶ月間滞在し、オンライン授業を受けながら空いた時間を使って、まちの人々と交流

2021年1月 ぶんじ寮入居（大学2年）

「まちの寮になる」「お金に頼るのを半分にする」「安心と冒険」というコンセプトのシェアハウスに入居し、地域通貨も取り入れながら生活。

2022年4月 大学休学（大学4年）

「自分の仕事を自分で作りたい」という思いから休学を決意。
上越市で空き家リサーチを開始。



家賃やランニングコストのハードル

アライアンス面のハードル

可能な限り家賃ゼロ

駅から遠すぎず、近すぎずない距離

完全な空き家ではなく、まちの隙間でも可

まちをとにかく歩き回る。
不動産屋や空き家バンクなどは使えなかった。

商店や知人から近隣の空き家情報を聞き出し、
そのご近所さんに声をかけて
物件の持ち主に繋いでもらう。

なかなか決まらないまま4ヶ月！

- ・自分は何者で何がしたいのか
- ・なんとなく怪しい
- ・事勿れ主義

家賃0円の賃貸契約。
期間は6年間で期間内に物件を買い取る。

イニシャル・ランニングコストを抑えることに成功。

空き家全体を小さな複合施設として活用

周辺の小規模事業者を淘汰していくような大きな複合施設へのアンチテーゼ

3つに切り分けて複合機能化

買う・話す

古本屋/雑貨屋/
古着屋/カフェ/
シェア商店



遊ぶ・創作する

アスレチック
モノづくり工房



学ぶ・体験する

コミュニティ農園
自習室

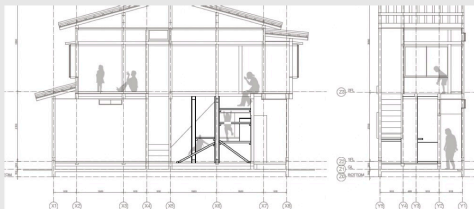


「手」・「身体」を動かして創造性を育む

近隣の事業者から出る端材をいただき、さまざまな素材を集める
工具を設置し、自由に手を動かしてモノづくりができるスペースを

空き家に元々あった建具や畳を活用してアスレチックをつくる
体を動かして遊ぶことができるスペースを

→モノづくり工房やアスレチックを通して創造性/身体性を獲得する



古本8割/新刊2割のまちの小さな書店

歴史ある雁木通りに大型書店ではないまちの小さな書店が存在することは文化的な側面も大きい
看板や机などは手作りであるべくコストをかけず、古本も現在は寄付でいただいたものを販売
売上は新刊の仕入れや建物の複合機能化の資金に使うという循環構造



ナチュラルに人が交わる空間を

書店奥のスペースを活用して自習室を整備
宿題でも仕事でも読書でも昼寝でもカードゲームでも過ごし方は自由
探究学習的な意味合いも込めて運営は近隣の小学5年生2人に任せ
名前やコンセプト、運営方法などを考えてもらう

庭に花壇をつくり、花や野菜を植える
水やりや草取り作業などをともにすることで自然と関係性が生まれる仕組みをつくる

▽活用スペース（1F書店奥のスペース：約5畳×2部屋）



場の用途を確定させず、なんでもできる空間を

お試し出店/POPUP/個展/イベント/マルシェ/ギャラリーetc
誰かの「やってみたい」を実現できる場所を目指す

→シンプルな空間設計/自由に用途転用可能な什器/インテリア

▽活用予定スペース（2Fフロア全体：約5畳×3部屋）



そうだ。自分へ、あの人へ、手紙を書こう。

近年、書くこと / 受け取ることが少なくなった手紙。

SNSで気軽に連絡が取れる現代だからこそ、あえて手紙を書こう。
目一杯のあなたを詰め込んで。



特別な非日常よりも、ちょっと良い日常を

なんでもない日常を少しだけ彩る

朝夕の散歩
仕事や学校からの帰り道
ゆっくりしたい休日

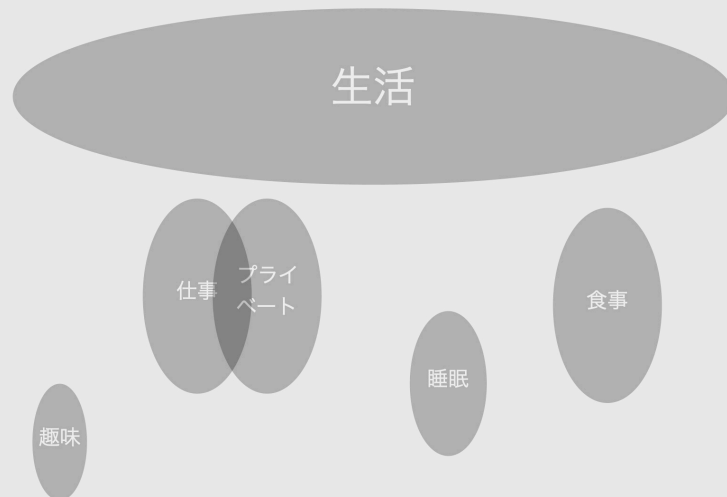
ちょっと豊かで
ちょっと楽しくて
ちょっとおもしろくて
ちょっと幸せで

いかにして日常生活の一部になるか

自分と“仕事” / 自分と“社会”

仕事はあくまでも生活の中の一要素

「どんな仕事をしたいか」
よりも
「どんな生活を送りたいか」



仕事とプライベートの境界線を溶かす

生活の中でナチュラルに働きたかった

まとめると

自分で自分の仕事をつくるしかなかった

事業は社会への提案

「こうなったらおもしろいんじゃない？」という提案

マイナスからゼロというよりはゼロからプラスに

もし雁木通りの人通りが増えたら？
もし雁木町家が複合施設になったら？
もしまちの隙間におもしろい活動が増えたら？
もっとラフに空き家が使えるようになったら？

社会課題ではなく、創造的な問いが出発点

大きな仕組みへのアプローチやゲームチェンジを仕掛けるのではなく
手の届く範囲に確実に届けていく

どの単位で“社会”を見るか

国＞都道府県＞市区町村＞自治会町内会＞会社・学校＞家族



どこにポジショニングするか

国＞都道府県＞市区町村＞自治会町内会＞会社・学校＞家族

ここに正解も不正解もない

ポジショニング次第で
見えるもの、会う人、取るべき手段、規模感が変わる

国＞都道府県＞市区町村＞自治会町内会＞会社・学校＞家族

自分で決める
少しの勇気

ご清聴ありがとうございました